



©JLEAGUE PHOTOS

ベストイレブンに輝いた選手たち。前列左から豊田、佐藤、レアンドロ・ドミンゲス、ウイルソン。中列左から遠藤、高萩、青山。後列左から駒野、水本、田中マルクス闘莉王、西川

「2012 Jリーグアウォーズ」受賞一覧 (丸数字は受賞回数)

最優秀選手賞	佐藤 寿人(広島、初)
(GK)	西川 周作(広島、初)
(DF)	駒野 友一(磐田、初) / 田中 マルクス闘莉王(名古屋、⑨) / 水本 裕貴(広島、初)
ベストイレブン	レアンドロ・ドミンゲス(柏、②) / 遠藤 保仁(G大阪、⑩) / 青山 敏弘(広島、初) / 高萩 洋次郎(広島、初)
(MF)	
(FW)	ウイルソン(仙台、初) / 佐藤 寿人(広島、②) / 豊田 陽平(鳥栖、初)
得点王	佐藤 寿人(広島、初)
ベストヤングプレーヤー賞	柴崎 岳(鹿島)
フェアプレー賞 高円宮杯	サンフレッチェ広島 ②
フェアプレー賞(J1)	川崎フロンターレ 初
フェアプレー賞(J2)	該当クラブなし
フェアプレー個人賞	佐藤 寿人(広島、②)
最優秀監督賞	森保 一(広島、初)
最優秀主審賞	西村 雄一 ④
最優秀副審賞	相楽 亨 ⑤
Jリーグベストピッチ賞	日産スタジアム ④ / 東北電力ビッグスワンスタジアム ③ / アウトソーシングスタジアム日本平 ⑥ / キンチョウスタジアム 初
功労選手賞	藤田 俊哉 / 田中 誠
最優秀育成クラブ賞	コンサドーレ札幌 初

※功労賞、功労審判員賞は該当者なし



©JLEAGUE PHOTOS

ベストヤングプレーヤー賞は柴崎。なでしこジャパンの岩淵(右)がプレゼンターを務めた



©JLEAGUE PHOTOS

フェアプレー賞 高円宮杯が日本サッカー協会の大仁邦彌会長(右)から広島に手渡された



©JLEAGUE PHOTOS

最優秀主審賞の西村氏(左)と同副審賞の相楽氏。ともに4年連続の受賞となった



©JLEAGUE PHOTOS

功労選手賞の藤田氏(左)と田中氏は、日本代表や磐田などで活躍した



©JLEAGUE PHOTOS

最優秀育成クラブ賞は札幌。正賞のブック型楯を持つ矢萩竹美 代表取締役社長



©JLEAGUE PHOTOS

「投票で選んでいただき、とても光栄」とJ2 Most Exciting Playerの山口

歴代の最優秀選手賞受賞者

- 1993 三浦 知良(ヴェルディ川崎)
- 1994 ベレイラ(ヴェルディ川崎)
- 1995 スイコピッチ(名古屋グランパスエイト)
- 1996 ジョルジーニョ(鹿島アントラーズ)
- 1997 ドウンガ(ジュビロ磐田)
- 1998 中山 雅史(ジュビロ磐田)
- 1999 アレックス(清水エスパルス)※
- 2000 中村 俊輔(横浜F・マリノス)
- 2001 藤田 俊哉(ジュビロ磐田)
- 2002 高原 直泰(ジュビロ磐田)
- 2003 エメルソン(浦和レッズ)
- 2004 中澤 佑二(横浜F・マリノス)
- 2005 アラウージョ(ガンバ大阪)
- 2006 田中 マルクス闘莉王(浦和レッズ)
- 2007 ボンテ(浦和レッズ)
- 2008 マルキーニョス(鹿島アントラーズ)
- 2009 小笠原 満男(鹿島アントラーズ)
- 2010 榑崎 正剛(名古屋グランパス)
- 2011 レアンドロ・ドミンゲス(柏レイソル)
- 2012 佐藤 寿人(サンフレッチェ広島)

※現在在三都主 アレサンドロ(名古屋グランパス)として登録

「彼らに一步でも近づき、日本を代表する選手になっていかなければ、世界とは戦えないと思う」と、さらなる高みを見据えた。

フェアプレーで優勝

フェアプレー賞(J1)は広島、川崎フロンターレの2クラブで、反則ポイントが最も少なかった広島がフェアプレー賞 高円宮杯を授けられた。「フェアプレーの精神を持って、優勝という結果を手に入れることができたことを、非常に誇りに思う」と森保監督。優勝したクラブが同賞を受賞したのは、初めてのことだった。

最優秀主審賞の西村雄一、最優秀副審賞の相楽 亨の両氏は、ともに4年連続の受賞。それぞれ「リーグを成功させるために、一丸となって努力した審判員全ての仲間の頑張りを、とても誇りに思う」(西村氏)、「一つでも多く、素晴らしい試合を演出するという勝利を目指し、(審判員が)チームとして努力していきたい」(相楽氏)とスピーチした。

Jリーグベストピッチ賞は四つのスタジアム

のうち、キンチョウスタジアムが初受賞。磐田での活躍が長かった藤田俊哉、田中 誠の両氏が、功労選手賞の表彰を受けた。最優秀育成クラブ賞は、札幌が受賞した。

また、オープニングの前に行われたサポ-

ーターステージショーでは、J2リーグの各クラブから一人ずつ選ばれた「J2 Exciting 22」のうち、当日の来場者の投票によって山口智(千葉)が「J2 Most Exciting Player」に選ばれた。



©JLEAGUE PHOTOS

2階フロアでは東日本大震災のJリーグ復興支援活動を紹介する写真を展示



©JLEAGUE PHOTOS

Jリーグ杯(優勝銀皿)、Jリーグアウォーズで受賞者に贈られる賞品なども展示



©JLEAGUE PHOTOS

Jリーグ百年構想パートナーの朝日新聞社が当日の様子を伝える号外を配布



©JLEAGUE PHOTOS

キャノンステーション2012で集まったメッセージ写真パネル



©JLEAGUE PHOTOS

コカ・コーラのSMILE CARAVANを背景に記念撮影

「Jリーグ TEAM AS ONEプロジェクト all dreamチャリティーイベント」を開催

Jリーグは12月1~2日、「Jリーグ TEAM AS ONEプロジェクト all dreamチャリティーイベント」を開催した。福島県の中学生約100人を招待し、1日に味の素スタジアムで行われたJ1リーグ戦第34節のFC東京 vs ベガルタ仙台を観戦。翌日には、ジェフユナイテッド千葉のクラブハウス見学、さら

にフクダ電子アリーナでのサッカークリニックを実施した。

Jリーグは2011年3月11日の東日本大震災発生以来、「チカラをひとつに。-TEAM AS ONE-」をスローガンに掲げ、さまざまな復興支援活動に取り組んできた。その中で実施した「Jリーグ TEAM AS ONE募金」

の使途として、宮城県、岩手県の被災地沿岸部を中心に、グラウンド用簡易照明を寄贈。一方、今回のイベントは、被災地の中でも放射線の影響が強く、屋外での活動が制限され、募金の支援が行き届いていない福島県への復興支援を目的に開催した。

なお、このイベント開催に、一般社団法人日本プロサッカー選手会、一般社団法人Jリーグ選手OB会、アディダス ジャパン株式会社、キャンノンマーケティングジャパン株式会社、日本コカ・コーラ株式会社が協力した。



フクダ電子アリーナで行われたサッカークリニック。前日に試合があった選手たちも、笑顔で参加者を迎えた



柏木陽介選手(浦和)と対戦する機会を得た中学生選手たち

東日本大震災復興支援「カルビー&Jリーグ 元気にサッカー! スペシャル観戦ツアー!! 2012」開催

Jリーグは昨年に引き続き、Jリーグトップパートナーのカルビー株式会社と、JリーグおよびJクラブが行っている復興支援活動「チカラをひとつに。-TEAM AS ONE-」のもと、東日本大震災で被災した福島県内の小学生サッカーチームをJリーグの試合に招待し、「カルビー&Jリーグ 元気にサッカー! スペシャル観戦ツアー!! 2012」を開催した。

福島県サッカー協会に登録している六つの小学生チームを招き、11月17日に茨城県鹿嶋市で行われたイベントは、卜伝の郷運動公園多目的球技場で鹿島アントラーズジュニア

などとサッカー交流大会を実施。JリーグOB選手の本田泰人、三浦淳寛の両氏も参加した。その後、県立カシマサッカースタジアムでJ1リーグ戦第32節、鹿島アントラーズ vs ベガルタ仙台を観戦した。

本イベントは、福島県内で放射線の影響により屋外活動が時間制限されている県北地域や、津波被害が大きかったいわき市など県南地域の子どもたちを招待し、思い切りサッカーをプレーし、スポーツを楽しんでもらう機会と、Jリーグ最高レベルの試合をスタジアムで観戦する機会を提供。子どもたちがサッカーを笑顔



鹿島で活躍したJリーグOB選手の本田氏(右)も協力

で楽しめる1日をサポートした。また、株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー、一般財団法人福島県サッカー協会、一般社団法人Jリーグ選手OB会が協力。カルビー株式会社の社員の方々もイベント運営に携わった。

AFC CHAMPIONS LEAGUE

AFCチャンピオンズリーグ2013 グループステージ組み合わせが決定

アジア地域のクラブチャンピオンを決める「AFCチャンピオンズリーグ2013」のドロー(抽選会)が12月6日、マレーシアのクアラルンプールで行われ、グループステージの組み合わせが右表のように決まった。2月26日(火)、27日(水)にスタートするグループステージは、ホーム&アウェイの2回戦総当たり。各グループの上位2チームが、ラウンド16へ進出する。なお、前回まで1回戦制だったラウンド16と決勝は、ホーム&アウェイで実施される。優勝クラブはアジアサッカー連盟(AFC)を代表して、2013年に開催される予定のFIFAクラブワールドカップに出場する。

AFCチャンピオンズリーグ2013グループステージ組み合わせ	
<西アジア>	
【グループA】	アルシャバブ(サウジアラビア)/アルジャジーラ(UAE)/トラクター・サズイ(イラン)/エルジャイシュ(カタール)
【グループB】	ラホウィヤ(カタール)/アルエッティファク(サウジアラビア)/パフタコール(ウズベキスタン)/サバイエ・コム(イラン)またはアルシャバブ・アルアラビ(UAE)
【グループC】	セパハン(イラン)/アルガラファ(カタール)/アルアハリ(サウジアラビア)/アルナスル(UAE)またはロコモチフ(ウズベキスタン)
【グループD】	アルアイン(UAE)/エステグラル(イラン)/アルラヤン(カタール)/アルヒラル(サウジアラビア)
<東アジア>	
【グループE】	FCソウル(韓国)/プリズベン・ローア(オーストラリア)またはプリラム・ユナイテッド(タイ)/ベガルタ仙台(日本)/江蘇舜天(中国)
【グループF】	広州恒大(中国)/全北現代モータース(韓国)/ムアントン・ユナイテッド(タイ)/浦和レッズ(日本)
【グループG】	サンフレッチェ広島(日本)/北京国安(中国)/浦項スティーラーズ(韓国)/ブニョドコル(ウズベキスタン)
【グループH】	セントラルコースト・マリナース(オーストラリア)/第92回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝チーム(日本)/貴州人和(中国)/水原三星ブルーウイングス(韓国)

TOYOTA プレゼンツ FIFAクラブワールドカップ ジャパン 2012 世界に初挑戦の広島。5位で大会を終える



「TOYOTA プレゼンツ FIFAクラブワールドカップ ジャパン 2012」(12月6~16日)に出場したサンフレッチェ広島は、5位の成績で大会を終えた。

広島は2012シーズンのJ1リーグ戦で初優勝を飾り、開催国枠で出場権を獲得した。

初の世界への挑戦となった広島は、6日の開幕戦でオセアニア代表のオークランド・シティFC(ニュージーランド)と対戦。MF青山



オークランドとの開幕戦で見事なゴールを決めた青山

敏弘が66分に鮮やかなミドルシュートでゴールネットを揺らし、これが決勝点となって1-0の勝利を収めた。アフリカ代表のアルアハリ(エジプト)と戦った9日の準々決勝では、15分に先制を許し、32分にはFW佐藤寿人の得点で追いついたものの、57分に勝ち越されて1-2と惜敗した。

12日の5位決定戦で顔を合わせたのはアジア代表で、FWのイグノ、ラフィニヤ、DFカク テヒといったJクラブ所属経験のある選手を擁する蔚山現代(韓国)。オウンゴールで17分に先行されるも、35分にMF山岸 智が同点ゴールを決めた後、佐藤の2得点で逆転に成功。蔚山の反撃を1点に抑え、3-2と競り勝った。森保一監督は「(AFCチャンピオンズリーグ2013では)韓国のチームと当たるし、いいシミュレーションとなった。もっと力をつけない



蔚山戦で同点ゴールを挙げた山岸(16番)が祝福を受ける

といけない」と、新たな挑戦に向けて気を引き締めた。

なお、決勝では南米代表のSCコリンチャンス(ブラジル)が欧州代表のチェルシーFC(イングランド)を1-0で破り、優勝を飾った。13、14年の大会はモロッコで開催されることが決まっている。

2012 Jリーグ アンフェアなプレーに対する反則金

2012シーズンのアンフェアなプレーに対する反則金は、下記の通り。これは、Jリーグ規約第11章「制裁」第157条〔アンフェアなプレーに対する反則金〕および第158条〔反則ポイントの計算方法〕に基づく措置となる。

J1											
反則ポイントの年間合計数が102ポイントを超えた場合、当該Jクラブに対し、以下の通り反則金を科すものとする。											
103ポイント以上112ポイント以下	40万円	143ポイント以上152ポイント以下	150万円								
113ポイント以上122ポイント以下	60万円	153ポイント以上162ポイント以下	200万円								
123ポイント以上132ポイント以下	80万円	163ポイント以上172ポイント以下	250万円								
133ポイント以上142ポイント以下	100万円	173ポイント以上	300万円								
順位	クラブ	反則ポイント	反則金	試合数	警告	異議・遅延行為	警告2回による退場	退場	停止試合数	警告・退場無試合数	1試合平均ポイント
1	サンフレッチェ広島	10	¥0	34	36	4	0	0	4	14	0.29
2	川崎フロンターレ	23	¥0	34	47	6	0	0	2	12	0.68
3	ガンバ大阪	43	¥0	34	49	6	0	0	3	7	1.26
4	浦和レッズ	49	¥0	34	48	8	2	0	6	9	1.44
5	大宮アルディージャ	51	¥0	34	53	5	2	0	5	8	1.50
6	ジュビロ磐田	54	¥0	34	50	4	0	0	6	6	1.59
*7	FC東京	59	¥0	34	48	10	4	1	9	11	1.74
8	横浜F・マリノス	78	¥0	34	54	7	2	1	10	6	2.29
9	ベガルタ仙台	82	¥0	34	61	11	1	0	9	6	2.41
10	ヴィッセル神戸	86	¥0	34	62	6	3	0	9	4	2.53
11	サガン鳥栖	87	¥0	34	62	7	0	0	8	2	2.56
12	コンサドーレ札幌	89	¥0	34	60	9	2	1	9	4	2.62
*13	名古屋グランパス	100	¥0	34	63	9	1	3	11	5	2.94
*14	セレッソ大阪	102	¥0	34	63	6	3	3	13	6	3.00
*15	アルビレックス新潟	104	¥400,000	34	65	14	4	1	12	6	3.06
*16	鹿島アントラーズ	105	¥400,000	34	64	13	1	1	13	5	3.09
17	柏レイソル	138	¥1,000,000	34	77	11	2	2	17	3	4.06
18	清水エスバルス	142	¥1,000,000	34	78	15	7	0	17	3	4.18
		合計	¥2,800,000	1,040	151	34	13	163	117	2.29	

*印のクラブのポイントには、次の停止試合数が含まれる。
・退場および退席に伴うベンチ入り停止試合数
・最終節の退場処分により未消化の停止試合数

<反則ポイントの計算方法>

(反則ポイント) = ((警告) - (警告2回による退場) × 2) × 1ポイント + (警告2回による退場) × 3ポイント + (退場) × 3ポイント + (停止試合数) × 3ポイント - (警告および退場(退席を含む)がなかった試合数) × 3ポイント
警告のうち「異議」、「遅延行為」によるものについては別途1ポイントを加算

J2											
反則ポイントの年間合計数が126ポイントを超えた場合、当該Jクラブに対し、以下の通り反則金を科すものとする。											
127ポイント以上136ポイント以下	40万円	167ポイント以上	150万円								
137ポイント以上146ポイント以下	60万円										
147ポイント以上156ポイント以下	80万円										
157ポイント以上166ポイント以下	100万円										
順位	クラブ	反則ポイント	反則金	試合数	警告	異議・遅延行為	警告2回による退場	退場	停止試合数	警告・退場無試合数	1試合平均ポイント
1	横浜FC	48	¥0	42	60	6	0	0	5	11	1.14
2	ジェフユナイテッド千葉	52	¥0	42	52	8	1	1	7	11	1.24
3	モンテディオ山形	69	¥0	42	62	6	1	0	8	8	1.64
4	松本山雅FC	76	¥0	42	60	10	0	0	8	6	1.81
5	徳島ヴォルティス	79	¥0	42	62	8	3	3	11	12	1.88
6	ファジアーノ岡山	80	¥0	42	66	7	1	0	9	7	1.90
7	FC町田ゼルビア	82	¥0	42	69	10	3	0	12	12	1.95
8	カターレ富山	94	¥0	42	68	7	1	0	12	6	2.24
9	FC岐阜	99	¥0	42	75	6	0	0	10	4	2.36
10	大分トリニータ	99	¥0	42	68	9	1	1	13	7	2.36
11	東京ヴェルディ	100	¥0	42	70	6	3	1	14	8	2.38
12	湘南ベルマーレ	100	¥0	42	70	7	2	1	14	8	2.38
13	アビスパ福岡	105	¥0	42	76	12	2	1	15	11	2.50
14	ガイナレ鳥取	107	¥0	42	71	6	3	1	12	4	2.55
15	ヴァンフォーレ甲府	109	¥0	42	73	11	4	2	13	8	2.60
*16	栃木SC	111	¥0	42	66	13	2	2	15	7	2.64
17	京都サンガF.C.	115	¥0	42	68	11	3	1	17	7	2.74
*18	ザスパ草津	130	¥400,000	42	77	5	3	3	19	7	3.10
19	ロアッソ熊本	132	¥400,000	42	81	9	3	1	15	3	3.14
*20	水戸ホーリーホック	147	¥800,000	42	78	7	5	3	23	7	3.50
*21	愛媛FC	162	¥1,000,000	42	85	4	4	2	23	2	3.86
22	ギラヴァンツ北九州	167	¥1,500,000	42	98	17	4	0	20	4	3.98
		合計	¥4,100,000	1,555	185	49	23	295	160	2.45	

Jクラブと歩む「地域」「ひと」

39

ガンバ大阪



新スタジアム建設に向けた熱い思い。完成後に思いをはせる地域の人々

JリーグOB選手が古巣に恩返し

10月27日、ガンバ大阪のホームスタジアム・万博記念競技場に隣接するフードコート「美味G横丁(おいじ〜よこちょう)」に、ひととき長い列ができた。サポーターのお目当ては、この日売り出された「パティスリーブラザーズ」の人気スイーツ。売上の10%が新スタジアム建設資金として寄付される「タイアップ募金」の企画第一弾で、対象商品であるロールケーキやチーズタルト、ホワイトチョコで野菜を片面コーティングした「ベジフルチョコレート」などを買い求めるファンでにぎわった。

「自分が3年間プレーさせていただいたガンバ大阪が新しいスタジアムを造ると聞いて、何か恩返しをしたかったんです」と企画を立案した株式会社MKSコーポレーション常務取締役、寄本晋輔さんは話す。



寄本晋輔氏

寄本さんは2001年、大阪・関西大学第一高からガンバ大阪に加入した。出場機会に恵まれず、わずか3年でチームを去ったが、現役引退後は二人の兄とともにMKSコーポレーションを経営。08年に「パティスリーブラザーズ」を立ち上げ、既存の枠にとらわれないユニークな商品を次々にプロデュースしている。

寄本さんが協力に乗り出したのは、新スタジアム建設の進捗状況が芳しくないことが理由だ。万博記念公園内(大阪府吹田市)に建設

予定の新スタジアムは総工費約140億円。14年度内の完成を目指しており、関西の経済団体などで結成した「スタジアム建設募金団体」が、スポンサーなどの企業から約90億円、サッカーくじ(toto)などの助成金から約30億円を集める。残りの約20億円は一般サポーターの募金でまかなう予定だが、12月6日現在で約1億500万円にとどまっている。《みんなの寄付金でつくる日本初のスタジアム!》をコンセプトに掲げているものの、肝心の募金集めは難航しているのが実情だ。

「こうした取り組みでスタジアムができることを、まだ多くの方がご存じない。告知による貢献は微々たるものかもしれませんが、行動に移すことに意義があると思って」と寄本さん。10箱、20箱と大量購入し「これでいくらいたやろ」と満足そうに声を掛けてきたサポーターもいれば、「東京でも売ってくださいよ」「友達にも言っとくわ」との要望や激励も多々。ツイッターで再三にわたって発信してくれた人もいたという。

「何とかしてスタジアムを造りたいというファンの皆さんの気持ちが伝わってきました。スイーツ代の一部が募金につながるということで、気持ちよく協力していただけたのではないのでしょうか。そういう意味では、手応えのあった一日でした」

Jリーグ選手から洋菓子店の共同経営者に転身を遂げた寄本さん。今もサッカーへの思いは熱く、「サッカー観戦にプラスアルファの楽しみをつくり出したい」と語る。ブラザーズのスイーツを子どもたちにおねだりされ、家族そろって真新しいスタジアムに出掛ける。選手たちの息づ



新スタジアム完成予想図

©スタジアム建設募金団体

かいや華麗なプレーに接し、少年少女がサッカーの、そしてガンバ大阪の魅力に取りつかれていく。スイーツはその一助になれると信じている。

建設推進へ署名集めに奔走

吹田市議会が新スタジアムの寄贈受け入れ案を可決し、市民一体となった募金活動に正式にゴーサインが出たのは11年12月。ここに至るまでに大きな役割を果たしたのが、地元吹田後援会だ。

この直前、建設促進を求める署名活動を始めると、わずか1カ月足らずで約21万6千人分が集まった。スタジアム建設本部グループマネージャーの岸部明彦さんは「地域の力が非常に大きかった」と振り返る。

吹田後援会事務局長の竹内義顕さんによると、市民の反応はさまざまだったという。賛同の声がある一方で「住民負担が増えるのでは」と危惧する声も。竹内さんから後援会メンバーは「市内を駆けずり回って」熱心に訴え、地域住民の協力を取り付けていった。



竹内義顕氏

サッカー専用となる新スタジアムは、収容人員が現在の約2倍となる4万人。ゴール裏観客席からピッチまで10m、メイン、バック両スタンドからタッチラインまでは7mしかなく、「陸上競技のトラックがないので臨場感が違う。選手と観客が一体になれる」と竹内さん。地元後援会として「新スタジアムに来ていただけるようなイベントを、どんどん展開したいと思っています」と完成後に思いをはせた。

(産経新聞社 細井 伸彦)



新スタジアム建設を後押ししようと、「パティスリーブラザーズ」のスイーツを買い求めるサポーター。売上の10%が建設資金として寄付されるユニークな企画だ
©ガンバ大阪

「豊かで充実したスポーツ環境を実現し、地域に根差したスポーツクラブを中心に、日本にスポーツ文化を育む」ことを目指す「Jリーグ百年構想」のもと、Jクラブはそれぞれのホームタウンを中心に、さまざまな取り組みを行っている。そして、Jクラブの存在、活動は、地域とそこに暮らす人々に影響、刺激を与え、新たなムーブメントを生んでいる。Jクラブと手を携えながら、ともに歩む人々や、その活動を紹介するシリーズも最終回。今号ではガンバ大阪、FC町田ゼルビアと連携した地域の取り組みにスポットを当てた。



40

FC町田ゼルビア



クラブのビジョンを共有し、町づくりのために積極的に連携

理念に添えてともに歩む

FC町田ゼルビアは、「町田で育った子どもたちが、大人になっても町田でサッカーを続けられるように」との願いから、1989年にチームが結成された。「三つの理念」として社会貢献、地域の発展、子どもの教育を掲げているのも、ホームタウンとともに歩んでいこうという姿勢の表れ。その思いに添えて、2009年に教育連携プログラムをスタートさせたのが、同市にある玉川大学だ。

ゼルビアでの学生のインターンシップやゲーム運営を補助するボランティア活動、マンガ研究部の広報企画連携、玉川学園小、中学生への体育(サッカー)授業の巡回指導や、中学、高校生へのプロスポーツクラブに関する授業が行われてきた。学校法人玉川学園の山田剛康 総務部長は「正直に言って、町田ゼルビアの存在は知らなかった。学校がプロのサッカークラブをサポートするのは、ほとんどないこと。なぜサッカーなのかという議論もしましたが、ゼルビアの地域連携や若手人材育成というビジョンを共有し、町田の町づくりに参画したいと考えた」と語る。



山田剛康氏

09年といえば、ゼルビアがJFL(日本フットボールリーグ)に昇格した年。翌年には元日本代表の相馬直樹氏が監督に就任し、「Jリー

グ」を見据えた動きが加速した。「就任当日、出張中の私に『相馬監督就任』の携帯メールが入りました。『ゼルビアが動いた。本気だ』と確信しました。いまでも鮮明に覚えています」と山田部長は振り返る。Jリーグ昇格への道とともに歩むことで「最初は仕事だったが、だんだん一人として夢実現の現場に立ち会うようになった」という。いつの間にか、アウェイの試合にも足を運ぶようになっていたようだ。

COUMZで地域貢献

Jリーグ昇格を果たした12年、新たな動きがあった。同じ町田市にある桜美林大学が加わって「FC町田ゼルビア大学連携」が誕生したのだ。頭文字を取って「COUMZ」と名付けられたこの連携は、地域貢献、スポーツ振興、教育連携を目的としてゼルビアをサポートするもの。学校法人桜美林学園の志村望 経営企画室部長は「町田を活性化するという地域貢献に、組織的に取り組んだ。若者に出て行く場を与えてもらったと思う。子どもたちの輝いた目、父兄の顔。サッカーなんです、今の人たちは。私も変わりました。ゼルビアのことが、気になるようになりました」と話す。



志村望氏

プログラムに参加した学生の声も弾む。ブースの運営に携わった桜美林大3年の飯田

啓介さんは「試合前のMCを担当した仲間は、いい経験をさせてもらったと言っていた。他大学との交流や大学祭を行う上でのイベントの運営方法などが、非常に勉強になった」と語り、同じく桜美林大3年の上田遥さんはアートやデザインを学ぶ他大学の学生17人と、フェイスペイントとうちわ作りのワークショップに参加し、「全ての活動が初めての経験で不安もあったが、同じジャンルを勉強してきた学生同士なので、共通の価値観があり、楽しく活動できた。サッカーに関しては無知だったが、このプログラムに参加してからはゼルビアの試合結果が気になるようになった」と語る。

残念ながら、ゼルビアはJ2リーグ戦で22位に終わり、来シーズンはJFLで戦うことになった。それでもCOUMZは意気盛んだ。志村部長は「Jリーグ、JFLということは関係ない。町田が熱くなる、みんなで一つのものを応援していくというこの取り組みは、学生の実習の場でもある」ときっぱり。

山田部長も「サッカーは一つの教材。地域連携には、いろいろな参加の仕方がある。来年に向けて、町田市内の別の大学にも参加を呼び掛ける」と13年のさらなる活動の広がり期待する。「目標を一つにするものが初めてできた。学生主体の地域連携、彼らの目線でできるのがCOUMZ。町田市はまだ結集できていない。来年は、われわれの力を試す時だと思えます」と力を込めた。

(共同通信社 若相 貞之)



11月の玉川大学コスモス祭。農学部が収穫の感謝と翌年の豊作を祈願して、みこしを担ぐ。それを眺める町田のクラブマスコット、ゼルビー © FC町田ゼルビア



玉川大学、桜美林大学の学生が、7月8日に町田市立陸上競技場で行われたホームゲームで、フェイスペイントなどのイベントを開催 © FC町田ゼルビア

2012 Jリーグ チェアマン総括

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ チェアマン 大東 和美



©J.LEAGUE PHOTOS

2012シーズンのJリーグは、リーグ戦、Jリーグヤマザキナビスコカップとも20回目の開催を迎えるという節目の年となった。そして、J1・J2のクラブ数が40に達し、「Jリーグクラブライセンス制度」、「J1昇格プレーオフ」や「J2・JFL間での入れ替え制度」など新しい取り組みの初年度となる、大きな変革の1年でもあった。「共生から競争」へ、われわれはJリーグ全体の価値向上と、ゲームのクオリティーアップを目指すことに全力を傾けてきた。

組織的には、公益認定を受けたことにより、本年4月1日付で、公益社団法人 日本プロサッカーリーグとして日本サッカーの進化・発展に向け、新たな一歩を踏み出した。

リーグ戦、リーグカップ戦

J1リーグ戦では、サンフレッチェ広島が悲願ともいえる初優勝を成し遂げ、Jリーグ20年の歴史に新たな1ページを加えた。今シーズンから指揮を執った森保一監督、キャプテンの佐藤寿人選手のもと、卓越した組織力は目を見張るものがあった。森崎和幸・浩司選手、高萩洋次郎選手など、数多くのアカデミー出身選手が活躍するなど、育成型クラブを進化・発展させ、ついに栄冠を勝ち取った。合わせて、反則ポイントが最も少なく、フェアプレーを貫きながらの優勝も、非常に誇らしく、見事なものだった。

広島と終盤まで激しく優勝を争った、ベガルタ仙台の戦いぶりも称賛に値した。昨シーズンの4位から2位へ躍進し、AFCチャンピオンズリーグ(ACL)の出場権も初めて手にした。東日本大震災の被災地を勇気づける存在となった。初めてJ1で戦ったサガン鳥栖も、最終節までACL出場権獲得に望みをつなぐなど、5位に入る健闘を見せた。

広島、仙台、鳥栖などは、いずれもしっかりとしたプレースタイルを確立し、堅固な組織的守備の上に、日本人ストライカーが得点を量産して好成績を収めた。一方で、鹿島アントラーズ、ガンバ大阪といった実績のある強豪の苦戦も目立った。こうしたクラブによってこれまでになく伯仲した戦いが展開されたことは、Jリーグ20年の成熟度を示しているものと考えている。

J2リーグ戦では、ヴァンフォーレ甲府が最終節まで24試合連続無敗という、今後も破られそうにないと思える素晴らしい記録をつくり、優勝を飾った。同じく昇格を果たした湘南ベルマーレ、大分トリニータとともに、来シーズンのJ1での活

躍が期待される。また、今シーズンから導入されたJ1昇格プレーオフ、J2・JFL間での入れ替え制度によって、最終節まで予断を許さぬ戦いが続き、リーグ戦が活性化された。

2012 Jリーグヤマザキナビスコカップでは、鹿島が2連覇を果たした。自らの持つ記録を更新し、大会史上最多となる5回目の優勝は、20回目の記念すべき大会にふさわしい歴史的偉業といえるだろう。

Jリーグアカデミーの成果

今夏に開催されたロンドンオリンピックにおいて、男子日本代表は44年ぶりにベスト4入りする快挙を成し遂げた。チームの全員がJクラブ所属またはJクラブ出身の選手であり、その多くがJクラブのアカデミー出身であった。オリンピックに出場するレベルから世界のトップクラスへ、20年にわたり、リーグとして選手の育成に力点を置き、指導者の養成ならびに育成メソッドの確立の結果が、この成績につながったものであると確信している。

今後もとどまることなく、世界のトッププレーヤーを育成するためのアカデミー施策を推し進めていきたい。

Jリーグクラブライセンス制度

2012シーズンの大きな変革の一つとして、「Jリーグクラブライセンス制度」のスタートが挙げられる。33クラブにJ1クラブライセンス、8クラブにJ2クラブライセンスが交付された。ライセンス取得にあたっては、施設、財務などに乗り越えなければならないハードルがあるが、これは決してクラブをふるいにかける制度ではなく、ライセンスの審査項目には、クラブ運営のあるべき方向が示されている。審査基準で未充足の項目については、各クラブが前向きに取り組む姿勢を示しており、より良いクラブ運営に向けて努力を続けてほしい。それが世界に伍して戦うことを目指す日本サッカーの成熟、さらなる普及に向けて必要なシステムであると確信している。

+Qualityプロジェクト

ピッチ上におけるクオリティーを向上させることを主眼とした「+Qualityプロジェクト」を立ち上げた。ファンやサポーターの目線で、もっと質の高い試合、つまり「+Quality」を追求することで、試合の魅力アップにつなげたいという思いが込められている。「+Quality」の精神は、ファン・サポーターのためであり、Jリーグを支援いただく全ての方々の未来のためであり、世界と対等に戦うためには必須事項であ

ると考えており、来シーズン以降もさらなる向上を促していきたい。

アジアに向けたネットワークの構築

2012年のJリーグは、アジアのサッカーにおける中心的存在となるべく、アジアの国々とのネットワーク強化にも取り組んだ。タイ、ベトナム、ミャンマーのプロリーグとの提携をはじめ、提携国へのJクラブ派遣協力、アジアにおけるJ1リーグ戦のテレビ中継拡大、Jリーグアジアアンバサダーによる現地での活動など、アジアにおけるJリーグのブランドアップに一定の成果を挙げることができた。アジアのレベルを上げることが、日本サッカーの向上につながると信じ、Jリーグが20年間に培ったノウハウを惜しむことなく提供していく。

こうしたアジアにおける取り組みと関連して、ACLでのJクラブの活躍も重要となる。日本から出場する4クラブには、ぜひ07年の浦和レッズ、08年のG大阪に続くアジア制覇を実現してもらいたい。

東日本大震災から1年が経過して

東日本大震災から一年半余りが経過したが、被災地においては、まだまだ復興に向けてのハードルは高く、険しいものとなっている。Jリーグは「決して忘れない」という姿勢を堅持し、7月の「東日本大震災復興支援2012 Jリーグスペシャルマッチ」を軸として、チャリティーイベントの開催や募金を原資とした簡易照明の寄贈など継続的な支援活動を実施してきた。今後も、1日でも早い被災地の復興を願い、これまで以上に支援活動に力を入れていく。

「Jリーグニュース」200号に寄せて

Jリーグの広報誌である「Jリーグニュース」が、今号で創刊から200号を迎えました。「Jリーグ」の名称が世に出た1991年7月から93年5月まで、22号にわたって発行された後、リニューアルされて94年8月に第1号が発行されました。以来、Jリーグの活動、Jクラブの取り組みなどを広く伝達するオフィシャルメディアとして、Jクラブ、パートナー企業、ホームタウン自治体、報道関係の皆さまのお手元に届けてきました。この間、インターネットの急速な発達・普及などにより、広報手段も多様化しました。しかしながら、紙媒体、デジタル媒体双方に、それぞれの良さがあり、今後も両媒体が相互に補完して車の両輪のような存在となるべく、有機的に展開していきたいと考えております。

今後とも「Jリーグニュース」がJリーグの動向を知るための有効なツールとして、皆さまのお役に立つことができれば幸いです。

大東 和美

